

# 高等学校

## 教育目標

- 1 知性を高め、教養を深める
- 2 品性を養い、感性を磨く
- 3 自ら判断し挑戦する精神を高める

30富士高第33号  
東京都立富士高等学校附属中学校長  
校 長 決 定

平成30年度 東京都立富士高等学校学校経営計画

### I 目指す学校

伝統ある富士高校の自主自律を尊重する精神を受け継ぎ、主体的な行動を大切にして、確かな学力を育成するとともに、部活動や学校行事等の様々な創造的な教育活動に積極的に参加し、たくましい体力や豊かな人間性を培う教育を実践し、自己の能力を最大限に発揮し広く社会に貢献できる人材を育成する。

① 生徒の能力を開花させ、進路実現を図る学校

健全で明るい校風の中で、授業第一主義をモットーに確かな学力を育成する。そして生徒が希望する**難関国公立大学等に合格させる学校**にする。

② 創造的な活動で自主自律を育てる学校

学校行事や部活動及び地域社会との交流、国際交流、ボランティア活動等、幅広く体験を積み重ね、リーダーシップをもった**自主自律の精神を備えた生徒を育てる学校**にする。

③ 理数アカデミー校として、体験・情報・理数教育で探究力を育てる学校

質の高い情報教育と、理数教育・環境教育の推進を通して、生徒一人一人が自ら考え課題を設定し、問題を解決しようとする**探究力を培う学校**にする。

④ 国際化に対応する教育を重視する学校

国際理解教育を重視し、**国際社会で活躍できる人材を育成する学校**にする。

### II 中期的目標と方策

文武両道の進学校としての地位を理数教育の取組を契機にさらに発展させる。そのために、基礎・基本の土台の上に、主体的に考える授業によって富士山型の人間を育成する。将来自立した国際社会のリーダーとして活躍できる資質の高い人材の育成を果たす。

また、生徒の自己有用感や帰属意識を高める指導を組織的に行う。

#### 1 授業の充実

教科主任会議と教科会の効果的な連携をより一層推進し、主体的に考えさせる「富士授業」を実践していく。日々の学習で基礎・基本の上に考える力を育成していく指導をする。その上で発展的な学習も積極

的に挑ませ、高い学力を身に付く指導体制を整える。

- (1) 「認知の網を広げる」を合言葉に、探究未来学で育成する自ら考える力を他の教科でも意図的・計画的に拡充していく授業実践を展開する。そのためにアクティブ・ラーニングを取り入れて、学ぶ楽しさ、わかる・できる喜び等の成就感を自覚できる授業を実践する。
- (2) 「理数アカデミー校」として、全ての教科で「主体的に考える力」を育成し、学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を育む授業を実践する。

## 2 進路支援

国際社会のリーダーとして必要な資質・能力を幅広く身に付ける意義を理解させ、教科・学年・分掌が学校の目指す方向に向かって一体となった進路指導体制を充実させる。

- (1) 6年間を見通した系統的・組織的な進路指導を展開する。
- (2) 団体戦で挑むことを重視し、生徒同士が互いに激励し合い、切磋琢磨する環境を整備する。
- (3) データに基づき、生徒の学習意欲を高め、達成感がもてる指導を推進する。
- (4) 学習コンテンツ (Classi) を使用して情報を共有し、生徒の情意を高めていく。
- (5) 浪人生への支援をして、捲土重来を目指す生徒を応援する。

## 3 生活指導

中高一貫教育校富士の生徒としての自覚を持たせ、団体戦の意識を醸成する。そして自律的に生活規律の向上を図る集団づくりを組織的に推進する。

- (1) 学校生活や教育活動全般を通して自主自律の精神を涵養する。
- (2) 学年集会を活用して、皆で一緒に課題に取り組む生活指導を実践する。
- (3) 教員の人権感覚の向上及び教員と生徒の信頼関係に基づく指導をして、体罰とは一切無縁の実践をする。
- (4) いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止及び早期発見に組織的に取り組む。

## 4 特別活動と部活動の推進

創造的な特別活動や部活動を通して、強い精神力や思いやりの心、互いに協力する態度を育み、社会性を身に付けた国際社会のリーダーとなる人材を育成する。

- (1) 学校行事では互いを高め合う集団づくりを意識し、団体戦で挑む環境を整える。
- (2) 部活動では部員同士の連帯感を深め、協調性や指導力を培う。また、部活動と学業の両立を指導し、部活動後の勉強会などを指導し文武両道に導く。
- (3) ホームルーム活動、生徒会活動では創造的な活動を促進する。特に校内美化に積極的に取り組ませ、また、環境問題など大きなテーマを学校生活の中でできることから取り組む態度を育成する。

## 5 学校PR

学校説明会、授業公開、体験授業などの学校PR活動に全校体制で取り組む。

- (1) 本校のホームページによる情報発信を組織的、効果的に行う。
- (2) 説明会などで生徒の発表や活動内容などを紹介し、富士の魅力を直接伝えていく。

## 6 附属中学校と連携した中高一貫教育の確立

中高一貫教育校6年間の教育計画を磨いて、進路での自己実現をより一層高いレベルに押し上げる。

- (1) 教職員が協働する体制を整え、探究未来学などを通して、生徒の総合的な学力を系統的に身に付けさせる。
- (2) 教育活動全般を通して附属中学校の生徒との一体感を深め、中高一貫教育校としての連帯感及び帰属意識を高める指導を行う。

### Ⅲ 今年度の取組目標と方策

数値目標達成のため、「チーム富士」が一丸となって生徒主体の教育活動を展開し、以下の目標と方策を確実に履行していく。

#### 1 学校経営・組織体制

##### (1) 目標

「チーム富士」の自覚をもって、学校経営計画を確実に履行していく。また、常に分掌・学年・教科・経営企画室との連携を重視し、横串を意識した企画調整会議と教科主任会議を軸とした学校経営を行う。

##### (2) 方策

- ① 学校経営計画の数値目標に則り、各分掌等は組織目標・数値目標を設定し、分掌相互に協力して計画の実現に向かう。年度途中でプロセス評価を交え、年度後半の取組を再設定し、目標達成を確実にしていく。特に、教科主任会を学力向上の要の組織として位置付け、改善策を迅速に一致協力して実践していく。
- ② 各分掌・各教科主任は、年度末に数値目標の達成状況や成果を報告する。

#### 2 学習指導

##### (1) 目標

「教えるプロ（教師）」の誇りを持ち、理数アカデミーとして、探究未来学で育成する考える力を全ての教科で意図的・計画的に育成していく。生徒の高い進路希望を実現するために、データを絶えず分析すると同時に、アクティブ・ラーニングを意識した授業第一主義を実践する。また、「学力向上のための取組みシート」を活用しながら、課題の複線化を着実に実践する。更に、全生徒に習得させるミニマムライン（「富士ミニマム」）を設定し、生徒の情意を維持させる一方で、富士アカデミーや講習等で難関国公立大学に挑む生徒を確実に育成する。

##### (2) 方策

- ① 考える力を育成する「富士授業」に基づく授業第一主義を推進する。シラバスをベースに到達すべき目標から逆算した定期考査で成果を検証していく。生徒には自律的な学習者となることを求め、「認知の網を広げる」をモットーに全ての教科を学ぶ意義を理解・定着させていく。
- ② 教科主任会を機能させ、データ分析に基づく学習戦略を徹底する。教員は各自の端末で模試分析ソフトを駆使したデータ分析を実施して、データに基づく指導を実践する。
- ③ 富士アカデミーや講習などを意図的・計画的に開講する。また、朝学習や講習等を効果的に融合させた学習計画で生徒を指導する。
- ④ 長期休業日中の講習は部活動に優先して実施する。難関大学向け講座や記述講座などを開講して生徒の進路希望を実現する学習の場を設定していく。
- ⑤ 理数アカデミーに関連する土曜講座などを積極的に企画し、実物を実感できる機会を提供し、科学技術分野への理解を深めさせる。各種コンテストや検定に挑ませ、理数系学力の確かな向上を生徒に自覚させる。
- ⑥ 自習室を活用させて生徒が主体的に学習に取り組む姿勢や態度を育成する。また、外部人材による自主学習支援事業を活用し、依存型にならない学習支援を計画的に実施する。
- ⑦ 読書活動を推進し、学校図書館の有効活用を図る。また、ビブリオバトル（書評合戦）等の参加を通して、認知の網を広げるとともに、表現力、コミュニケーション能力の向上を図る。
- ⑧ 生徒の健康と体力の保持・増進を図るため、全ての体育の授業において、富士サーキットトレーニング（スクワット、腹筋、背筋運動）を実施する。
- ⑨ 教育活動全体を通して、オリンピック・パラリンピック教育を実施し、自己を肯定し、自らの目標を持って自らのベストを目指す意欲と態度を育む。

### 3 生活指導

#### (1) 目標

「育てるプロ（育師）」の自覚を持って、社会を生き抜く力を持ったリーダーとしての「責任感」、「思いやりの心」を身に付けた生徒を育成する。また、種々の部活動や学校行事を通して、団体戦を意識して協働し、互いに高め合う生徒を育成する。さらに、道徳教育の全体計画、学校安全計画の全体計画に基づき、全教育活動を通して心を耕す教育や安全教育に取り組む。

#### (2) 方策

- ① 学校行事・部活動で団体戦を意識させ、帰属意識・成功体験を身に付けさせる。始業式や終業式、全校集会においては校歌を全員で大きな声で斉唱する。
- ② 道徳教育の全体計画に基づき、全教育活動を通して規範意識の向上や心を耕す教育に取り組む。
- ③ スクールカウンセラーを有効に活用し、学校全体の相談機能の充実及びカウンセリング能力のレベルアップを図る。
- ④ 特別支援教育の視点に立って、特別の支援が必要な事案となる場合は、個別な指導を組織的に実施する。特別な支援が必要な状況においては、ホームルーム担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーによるケース会議を効果的に機能させるなど、生命尊重の支援体制の充実を図る。
- ⑤ 年間12回の「美化デー」で校内美化に主体的に取り組む生徒を育成する。
- ⑥ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの早期発見及び防止に組織的に取り組む。規律ある学校生活を送る生徒を育成する。
- ⑦ 人権尊重の精神及びコンプライアンスの徹底を図り、体罰防止に組織的に取り組む。
- ⑧ 学校安全計画の全体計画に基づき、避難訓練、安全講話、宿泊防災訓練等を計画的に実施し、危険を予測し回避する能力や、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する。宿泊防災訓練では、自助、共助の大切さや奉仕の精神を体得させるため、地域社会と連携し、地域に貢献する活動を取り入れて実施する。

### 4 特別活動・部活動

#### (1) 目標

「富士」の誇りが醸成できるよう、目標に向かって活動する生徒を積極的に支援する。教員は、「進路先のその先にある人間としての在り方生き方」を視野に据えた指導を意識し、地域等の外部の教育力を活用して、社会を生き抜く力を持ったリーダーの資質を育成する。

#### (2) 方策

- ① 学校行事では互いを高め合う集団づくりを意識し、参加する喜びが実感できる行事にする。また、地域等に公開して団体戦で挑む富士の学校行事を発信していく。
- ② 教育活動全体を通してオリンピック・パラリンピック教育を実施し、自己を肯定し、自らの目標を持って自らのベストを目指す意欲と態度を育む。また、運動スポーツに「する・みる・支える・知る」等の多様な関わり方ができるようにする。
- ③ 部活動では部員同士の連帯感を深め、協調性や指導力を培う。また、都大会、関東大会等の上位大会への出場を目指すとともに、部活動と学業の両立の文武両道を指導し、部活動後の勉強会などを指導する。また、「一部活一地域貢献」で地域社会への貢献を果たす。
- ④ 指導する教員のライフワーク・バランスと生徒の自由裁量時間を鑑みて、休養日を確実に設定していく。
- ⑤ ホームルーム活動、生徒会活動では創造的な活動を促進する。特に校内美化に積極的に取り組ませる。
- ⑥ ボランティア精神を発揮できるよう父母と先生の会、おやじの会等の関係機関との連携を強化する。

また、環境問題など大きなテーマを保護者や地域の支援で学ぶ機会も提供する。

## 5 進路指導

### (1) 目標

「進学のプロ」の誇りをもって、国公立大学に合格できる指導を組織的に実施していく。そのために進路データを駆使し、研修を通して全教職員で進路情報の収集・共有を図る。

### (2) 方策

- ① 各外部模試における数値目標を設定し、その達成に向け進路学力部と学年と教科が一体となって意図的・計画的な指導を展開する。模試の結果分析を学年集会等で丁寧に指導し、個人の弱点や課題を確実に把握させる。毎回の模試を受ける意義を自覚せざる。教員はデータを駆使して全体や個が取り組むべき課題を情報共有していく。
- ② 高校3年生では丁寧なケース会議を実施し、生徒の進路希望の実現を果たす。
- ③ 高校2年生では国公立大学ガイダンスなどを開催し、一人一人の生徒の進路希望を創造していく。朝や放課後及び長期休業日等に難関大学講座などに挑む情意を喚起していく。
- ④ 高校1年生ではオンライン英会話を活用して、4技能を意識した英語力を育成する。また、学習コンテンツを使って学習習慣の定着と学力向上を図る。
- ⑤ 高校1年から学習コンテンツ(Classi)を使用して情報を共有し、生徒の情意を高めていく。
- ⑥ 記述力の向上を優先し、講座や定期考査で記述問題を取り入れていく。
- ⑦ 部活動後の自習室活用を積極的に呼びかけ、団体戦(学び合い、教え合い)で文武両道を推進する。
- ⑧ 団体戦を支援するため、学年集会などを通して、生徒のモチベーションの維持・向上を図る。

## 6 募集・広報活動

### (1) 目標

「チーム富士」の教育実践を広く都民及び受検生に発信していく。

### (2) 方策

- ① ホームページで学校の教育活動を積極的に発信し、本校の特色ある教育活動の様子を広く都民及び受検生に発信する。
- ② 全教職員の連携・協力の下に、授業公開、学校説明会、グループ作成問題解説授業等を実施して、受検倍率を向上させる。

#### IV 今年度の数値目標

- (1) 大学入試センター試験において、  
5教科型の受験者を110名（在籍者の55%）以上にする。（前年度77名、40%）  
5教科型の受験者のうち、得点率80%以上の者を20人以上にする。（前年度17人）  
5教科型の受験者平均点を650点とする。（前年度617点）
- (2) 難関国立大学現役合格者数を5名以上、国公立大学現役合格者数を50名以上にする。（前年度4名、45名）
- (3) 難関私立大学（早慶上理）現役合格者数を75名以上にする。（前年度51名）
- (4) 国公立推薦入試（AO含む）で現役合格者を6名以上にする。（前年度4名）
- (5) 各学年の秋の外部模試で3教科の偏差値60以上を30%にする。
- (6) 夏季講習を100講座以上実施し、難関大学講座を20講座開講する。
- (7) 探究未来学等で作成した論文を外部コンテスト等に5件以上応募する。
- (8) 年間皆勤及び年間精勤の生徒の割合を各学年50%以上にする。
- (9) 学校評価アンケートの項目「私は部活動や学校行事に満足している」に対する生徒の肯定的な評価を85%以上にする。
- (10) 土曜日の授業公開（土曜日の学校説明会も含む）合計来校者数を5000名以上にする。  
（前年度4800名）
- (11) 受検応募倍率を、推薦に基づく選抜2.0倍以上、第一次募集1.6倍以上にする。  
（前年度 推薦：1.50倍、第一次募集：1.61倍）
- (12) 朝及び放課後の自習室の活用者数を一日平均50名以上にする。
- (13) 部活動の個人・団体での関東大会・全国大会出場を5以上とする。
- (14) 学校ホームページのアクセス数を5万回以上にする。
- (15) 新体力テストの平均値を全国平均以上に高める。（前年度体力合計点が平均点以上）
- (16) 部活動加入率を100%以上に維持する。
- (17) 教育相談員会を年間8回以上、思春期心理についての研修会実施し、適時適正に生徒理解、支援に努め、体罰事故を0件とする。